

## 授業概要

本演習では、環境会計・経営などに関する卒業論文の指導をします。企業の環境保全活動がどのように行われているか、論文でまとめてもらいます。学生の関心のある業界について「環境報告書」や「統合報告書」をもとに作成してください。論文作成の基本形式は、序論・本論・結論とします。文章作成は、パラグラフ・ライティングを基本として下さい。論文は、先行研究とリサーチクエッション（RQ）、仮説の検証、そして中心命題の含意など明確に記述すること。本学の大学院進学希望者は、研究テーマなど事前相談に応じます。なお、4年生の規範的判断力の養成として石田梅岩の『都鄙問答』を輪読します。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス 論文作成の基本概念	第 16 回	ガイダンス 途中経過の報告
第 2 回	パラグラフ・ライティングの紹介	第 17 回	中間報告会第 3 回
第 3 回	環境報告書、統合報告書の検索①	第 18 回	①テーマと目次②RQ と仮説③中心命題
第 4 回	環境報告書、統合報告書の検索②	第 19 回	
第 5 回	先行研究 CiNii 検索結果①	第 20 回	中間報告会第 4 回
第 6 回	先行研究 CiNii 検索結果②	第 21 回	①テーマと目次②RQ と仮説③中心命題
第 7 回	リサーチクエッションの提示	第 22 回	
第 8 回	目次作成とアウトラインの報告①	第 23 回	脚注と参考文献の提示①
第 9 回	同 上 ②	第 24 回	脚注と参考文献の確認②
第 10 回	中間報告会第 1 回	第 25 回	卒業論文報告会のパワポ準備
第 11 回	①テーマと目次②RQ と仮説③中心命題	第 26 回	卒業論文報告会のパワポ発表①
第 12 回		第 27 回	卒業論文報告会のパワポ発表②
第 13 回	中間報告会第 2 回	第 28 回	卒論要旨の作成提出①
第 14 回	①テーマと目次②RQ と仮説③中心命題	第 29 回	同 上 ②
第 15 回		第 30 回	卒業論文の提出
定期試験	春期定期試験実施	定期試験	秋期定期試験実施

## 到達目標

- 論文の基本形式を整えていること。

## 履修上の注意

- 論文作成は、パラグラフ・ライティングを考慮して作成すること。
- 就職活動等で欠席する場合は、事前の連絡をすること。

## 予習・復習

論文の概要は、iPad、スマートフォン等に保存して、いつでも確認できるようにして下さい。就職活動に追われると、論文作成がおろそかになります。日に 1 度は必ず、論文の流れを確認するようにして下さい。

## 評価方法

中間報告会の内容 50%、および卒業論文の内容 50%の合計で評価する。

## テキスト

- 教科書名：都鄙問答
- 著者名：石田梅岩著、城島明彦現代訳
- 出版社名：致知出版社
- 出版年（ISBN）：2016, 978-4-8009-1126-1  
¥1600+税

**授業概要**

入学以来学んできたことをベースとして、各自が適切な研究テーマを決めて、研究を着実に進めて最終的に卒業論文を完成させるための指導をします。その過程でとりわけ重要な点は、第1に論文の着眼点や目的をはっきりさせ自分の論文のオリジナルな貢献を明確化すること、第2に先行研究のサーベイを実施すること、第3に研究テーマに沿って必要な情報なデータを収集し、それらを分析、考察していくこと、そして最後に得られた結論を適切にまとめることです。

**授業計画**

第1回	卒業論文完成までのプロセス確認	第16回	中間報告1
第2回	卒業論文計画書の検討	第17回	中間報告2
第3回	卒業論文計画書の再検討	第18回	追加情報とデータ収集に関する報告1
第4回	先行研究サーベイの報告1	第19回	追加情報とデータ収集に関する報告2
第5回	先行研究サーベイの報告2	第20回	追加情報とデータ収集に関する報告3
第6回	先行研究サーベイの報告3	第21回	追加情報とデータ収集に関する報告4
第7回	先行研究サーベイの報告4	第22回	追加情報とデータ収集に関する報告5
第8回	先行研究サーベイの報告5	第23回	問題点の再整理1
第9回	情報とデータ収集に関する報告1	第24回	問題点の再整理2
第10回	情報とデータ収集に関する報告2	第25回	主要な結果の報告1
第11回	情報とデータ収集に関する報告3	第26回	主要な結果の報告2
第12回	情報とデータ収集に関する報告4	第27回	主要な結果の報告3
第13回	情報とデータ収集に関する報告5	第28回	卒業論文執筆の経過報告1
第14回	問題点の整理1	第29回	卒業論文執筆の経過報告2
第15回	問題点の整理2	第30回	卒業論文の完成
		第31回	要旨の作成

**到達目標**

最終的に重要な貢献を含んだ卒業論文を執筆することを目標とします。したがって、その過程の中で、関連文献を読みこなす能力、各種の情報やデータを収集し、加工する能力そして結果を適切に解釈する能力が、それぞれ必要とされます。

**履修上の注意**

論文を執筆するというのは、大変な労力を要しますので、十分な覚悟を持って取り組んでください。

**予習・復習**

卒業論文の執筆というものは、それぞれの学生がテーマ選択から完成まで主体的に取り組む課題ですので、当然各自が授業での議論を踏まえて、作業を進めていくことが重要です。

**評価方法**

各回の報告（40%）と論文の進捗状況（30%）および完成度（30%）に基づいて、総合的に評価します。

**テキスト**

必要な文献は、適宜指示します。

**授業概要**

この演習は、3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文を完成させることを目的としている。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身に付ける。研究に取り組む過程で、プレゼンテーションを行うことにより、研究課題への理解を深め、最終的に論文をまとめる。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	論文草案の問題と議論 1
第 2 回	卒業論文の作成方法 1	第 17 回	論文草案の問題と議論 2
第 3 回	卒業論文の作成方法 2	第 18 回	論文草案の問題と議論 3
第 4 回	テーマの設定及び参考文献の収集 1	第 19 回	卒業論文の執筆 1
第 5 回	テーマの設定及び参考文献の収集 2	第 20 回	卒業論文の執筆 2
第 6 回	テーマの設定及び参考文献の収集 3	第 21 回	卒業論文の執筆 3
第 7 回	先行研究の読解 1	第 22 回	卒業論文の執筆 4
第 8 回	先行研究の読解 2	第 23 回	論文の中間報告 1
第 9 回	先行研究の読解 3	第 24 回	論文の中間報告 2
第 10 回	先行研究の課題 4	第 25 回	卒業論文の修正 1
第 11 回	論文の構成と問題点の討論 1	第 26 回	卒業論文の修正 2
第 12 回	論文の構成と問題点の討論 2	第 27 回	卒業論文の修正 3
第 13 回	論文の構成と問題点の討論 3	第 28 回	要旨の作成 1
第 14 回	論文草案の作成と報告 1	第 29 回	要旨の作成 2
第 15 回	論文草案の作成と報告 2	第 30 回	卒論発表会の予行演習
		第 31 回	卒業論文の提出

**到達目標**

- 研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- 論文作成における論理的思考力を習得する。
- 4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

**履修上の注意**

- 無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- 主体的に参加すること。
- 毎回の授業内容をノート等に記録すること。

**予習・復習**

- 毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

**評価方法**

卒業論文と卒論発表（80%）、毎回の課題提出（20%）等をふまえ、総合的に評価する。

**テキスト**

特になし。必要に応じて参考文献を紹介する。

**授業概要**

これまでの各レポートとは異なり、4年間で最も関心を持つことが出来たテーマを選定し、1つのテーマについて真剣に考え、テーマに関する文献収集を行い、論理的な思考の訓練を行い、疑問に思うことを徹底的に調べ、掘り下げる必要がある内容を発見し、仮説を立て、研究目的に向かい、論旨を組み立て、論文を書き上げるまでの指導を行います。

**授業計画**

第 1 回	卒論とレポートの違い	第 16 回	序論完成
第 2 回	論文完成までの計画の立て方	第 17 回	論旨の展開確認
第 3 回	文献購読の仕方	第 18 回	本論完成
第 4 回	批判的に文献を読む	第 19 回	図表完成
第 5 回	文献収集	第 20 回	引用文献リスト完成
第 6 回	英語文献に挑戦	第 21 回	結論完成
第 7 回	先行研究	第 22 回	論文全体の吟味
第 8 回	研究目的の設定	第 23 回	本文完成
第 9 回	仮説の設定と検証方法検討	第 24 回	論文点検
第 10 回	卒論テーマの選定	第 25 回	最終誤字脱字チェック
第 11 回	卒論テーマの絞り込み&決定	第 26 回	論文完成確認
第 12 回	卒論目次作成	第 27 回	論文要旨作成
第 13 回	卒論構成完成	第 28 回	論文発表資料作成
第 14 回	研究計画書作成	第 29 回	発表会プレゼンテーション練習
第 15 回	中間発表	第 30 回	まとめ
		第 31 回	試験

**到達目標**

- 1つのテーマについて調べ、まとめる力が身につく。
- 文献を読み、批判的に検討する能力が身につく。
- 論理的思考が身につく。
- 文章を書く能力が向上する。

**履修上の注意**

4年間の集大成としての卒業論文ですので、真摯に取り組んでください。

**予習・復習**

毎回の進捗に応じて、予習・復習をしっかりとってください。

**評価方法**

卒業論文（要旨を含む）作成 100%

**テキスト**

教科書や参考書は特に指定しない。必要に応じて授業中に紹介する。

**授業概要**

卒業論文を執筆し、完成させることを目的とする。

各個人がマーケティング論、スポーツマーケティング論、その他広く社会科学に関連する事柄について、自由にテーマを設定し、なぜそのテーマを選んだ問題意識を明確にし、その問題についての先行研究のレビューを行い、自分のオリジナルな議論を展開することにより、自らに課した問題の解決を目指す。

これによって卒業論文及びその要旨を完成させる。

**授業計画**

第 1 回	卒業論文のテーマ設定	第 16 回	テーマ趣意文の修正と再提出
第 2 回	卒業論文の調べ方	第 17 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 3 回	卒業論文の書き方、注の付け方	第 18 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 4 回	テーマ趣意文の提出	第 19 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 5 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 20 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 6 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 21 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 7 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 22 回	卒業論文の第 2 回中間報告（個人別）
第 8 回	第 1 回中間まとめ	第 23 回	第 2 回中間報告の総括
第 9 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 24 回	卒業論文における注の重要性（再確認）
第 10 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 25 回	卒業論文の最終報告（個人別）
第 11 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 26 回	卒業論文の最終報告（個人別）
第 12 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 27 回	卒業論文の最終報告（個人別）
第 13 回	卒業論文の第 1 回中間報告（個人別）	第 28 回	卒業論文の最終報告（個人別）
第 14 回	第 1 回中間報告の総括	第 29 回	卒業論文の最終報告（個人別）
第 15 回	卒業論文完成へ向けての指導	第 30 回	卒業論文の最終報告（個人別）
		第 31 回	筆記試験等（レポート・最終報告を含む）

**到達目標**

- 卒業論文を執筆し完成させる
- 卒業論文の作成を通して、相手を理性的に説得することの重要性とその方法を身につける

**履修上の注意**

- 卒業論文作成は個人的な作業ですが、そうした作業はゼミにおける指導を通じて前進します。他の人の論文の話を書くことは自分の論文にも役に立ちますので、ゼミには必ず出席してください。

**予習・復習**

- 卒業論文作成は、本来、ゼミの時間以外で行われますので、自分の多くの時間を卒論作成にあてる必要があります。それは、予習・復習などという区別を超える、勉学本来がもつ自分自身の勉強・研究の時間です。自分自身でどれだけ時間を論文執筆に充てることができたかは、論文の質や完成度を決定的に左右します。できるだけ多くの時間を卒業論文作成にあてるようにしてください。

**評価方法**

卒業論文およびゼミでの中間報告を評価対象とします。

配点は、第 1 回中間報告 15%、第 2 回中間報告 15%、卒業論文 70%です。

**テキスト**

すでに、3年のゼミで、『うすいゼミ卒業論文の手引き』を配布しています。議論の進め方や注の付け方などが細かく載っていますので活用してください。Teams にもアップしておきます。

**授業概要**

3年時の専門演習で、考察対象の企業の「有価証券報告書（一部）」や「ホームページ」の情報を中心とした企業研究を基礎として、卒業論文に取り組む。

卒業論文の作成では、自身の問題意識に対して、どのように取り組んで課題解決するかが大切である。その検討の際には、多くの文献を参照することになるが、その参考文献の明示と、それに対する自身の主張を示すことに重点を置いて指導する。

**授業計画**

第1回	卒論作成についてのガイダンス	第16回	第2章の提出
第2回	テーマ決定のための資料プレゼン	第17回	第2章の報告（第1グループ）
第3回	テーマ選択理由のプレゼン	第18回	第2章の報告（第2グループ）
第4回	上記プレゼンで生じた課題の検討	第19回	第2章の修正版の報告と検討（第1グループ）
第5回	テーマ考察に必要な資料収集	第20回	第2章の修正版の報告と検討（第2グループ）
第6回	章立ての報告（第1回）	第21回	第3章以降の報告と検討（第1グループ）
第7回	前回の課題解決のための資料収集	第22回	第3章以降の報告と検討（第2グループ）
第8回	上記報告での課題の検討と報告	第23回	これまでの修正事項等の確認
第9回	章立ての報告（第2回）	第24回	結論の検討（第1グループ）
第10回	研究目的と方法の決定	第25回	結論の検討（第2グループ）
第11回	テーマ（仮）と章立ての決定	第26回	結論の報告と提出
第12回	引用・参考文献についての確認と指導	第27回	引用と参考文献の確認と整理
第13回	第1章の報告と討論（第1グループ）	第28回	卒業論文（要旨）の作成と提出
第14回	第1章の報告と討論（第2グループ）	第29回	卒論報告会用のレジューメ作成
第15回	夏季休暇と秋期の計画の報告	第30回	卒論発表会の事前演習
第16回	第1章の提出	第31回	卒論報告会でのプレゼン

※上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

**到達目標**

- ・自らが設定したテーマに対し、様々な資料を参照することにより、一定の結論を導き出す。
- ・多様な意見や視点があることを知る。

**履修上の注意**

- ・ゼミの活動は通常の講義時間以外のキャリアセンター主催の各種講座、学外での活動や懇親会への参加などを含む総合的なものであると考えているため、様々な履修指導を行う。
- ・就職活動と並行して進めることになるので、可能な限り、卒業単位を取得しておくこと。
- ・卒論本体の作成は、ゼミ性が何名であろうと、個別指導になる。

**予習復習**

予習・多くの参考文献を読む。

復習・課題に対する結論、や次の展開を考察する。

**評価方法**

卒業論文における参考文献の理解 40%程度と、自ら設定した問題意識に対する主張 60%程度として評価する。

**テキスト**

使用しない。

## 授業概要

租税法論文の書き方について、ゼミ生一人ひとりに対して、佐藤メソッドに従って、具体的書き方を指導します。皆さんは、判決文一つを取り上げ、問題点を見つけ、テーマを設定し、論証方法に従って、論文を完成させます。法解釈論文及び立法政策論文いずれも、指導の対象ではありますが、法解釈論文の方を主たる指導の対象とします。基本的には、1対1で個別に行う指導になります。

## 授業計画

第1回	ガイダンス：論文テーマ	第16回	第3章（裁判例認定事実検討）報告・指導
第2回	論文テーマ：報告・指導	第17回	第4章（当てはめ検討）報告・指導
第3回	論文テーマ：報告・指導	第18回	終章（まとめ）：報告・指導
第4回	論文テーマ：報告・指導	第19回	終章（課題・弱点補強）：報告・指導
第5回	文献収集：報告・指導	第20回	論理展開の再検討：報告・指導
第6回	序章：報告・指導	第21回	論理展開の再検討：報告・指導
第7回	第1章（事案概要・問題所在）	第22回	質・内容の向上（第1章）報告・指導
第8回	第2章（学説等検討）報告・指導	第23回	質・内容の向上（第2章）報告・指導
第9回	第2章（学説等検討）報告・指導	第24回	質・内容の向上（第2章）報告・指導
第10回	第2章（学説等検討）報告・指導	第25回	質・内容の向上（第3章）報告・指導
第11回	第2章（学説等検討）報告・指導	第26回	質・内容の向上（第3章）報告・指導
第12回	第3章（裁判例・解釈検討）報告・指導	第27回	質・内容の向上（第3章）報告・指導
第13回	第3章（裁判例解釈検討）報告・指導	第28回	質・内容の向上（第4章）報告・指導
第14回	第3章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第29回	質・内容の向上（終章）報告・指導
第15回	第3章（裁判例認定事実検討）報告・指導	第30回	まとめ（最終試験準備）
		第31回	最終試験

## 到達目標

卒業論文作成の1年間のうち、秋までに、ほぼ、粗々の論文が全体として出来上がることを目標とします。秋には、論理の崩れの再チェック（木に竹を接いだようになっていないか）等の実施、各章の補強作業（追加的資料収集を含む）を積極的に進め、最後の3か月はテニヲハのみの修正だけで終われるように、余裕のある進捗を確保できるよう指導します。

## 履修上の注意

租税法Ⅰ、Ⅱの講義科目の履修を修了していることが、履修の条件です。教員は、次のように、進行管理を行います。まず、当初3か月内で三点セット（事案概要・三者比較表・論者比較表）を作成し報告する。その後、常に四点セット（説明・質問等メモ、要旨、本文、論理展開図）を必ず作成のうえ、報告し、指導を受けることをルーティーンとします。テキストは暗記するぐらいに、何度も熟読して臨むことが必要です。

税の専門家を目指す履修生には、ぜひ履修していただきたい。なお、時間の合間をみて、就職のための準備（業界・企業研究、エントリーシート、履歴書、会社訪問等を含む）の指導を、合わせて行います。

## 予習・復習

予習は、教員独自配付資料について、その内容を理解すること、復習は、授業内容のポイントを、熟読して、授業内容の理解をさらに深めること、それらを反映する論文の執筆を行うこと、です。

授業時間が90分の場合、この他に、合計4時間程度を、自宅等での予習復習（その内容は、[理解・訓練・実行]ことです）に充てること、文科省により推奨されています。しっかりと予習・復習して下さい。

## 評価方法

論文の内容の完成度によって、評価する。配点比率は、「論文の質・発表の内容」に、100%です。

## テキスト

なし。すべて、教員作成の独自テキストを配付します。

**授業概要**

本演習では、3年生秋期に作成したリサーチプロポーザルをベースに各自が決めた研究テーマに沿って、卒業論文を作成することを目的としている。研究テーマに沿って必要な文献、論文、資料、データを収集し、調査分析、考察する能力を修得する。

具体的には、各個人が興味のある企業を選定し、企業の分析を中心とした研究テーマを設定した上で、研究の背景、先行研究、課題設定、事例分析、事例検証、考察、まとめ、といった構成で研究課題への理解を深め、最終的に卒業論文を執筆する。

**授業計画**

第 1 回	春期演習の概要	第 16 回	秋期演習の概要
第 2 回	研究テーマに関連する資料収集 1	第 17 回	事例分析 1
第 3 回	研究テーマに関連する資料収集 2	第 18 回	事例分析 2
第 4 回	研究テーマの設定	第 19 回	事例検証・結果の整理 1
第 5 回	研究テーマの背景	第 20 回	事例検証・結果の整理 2
第 6 回	先行研究の精読 1	第 21 回	考察 1
第 7 回	先行研究の精読 2	第 22 回	考察 2
第 8 回	先行研究の精読 3	第 23 回	まとめ 1
第 9 回	先行研究の精読 4	第 24 回	まとめ 2
第 10 回	先行研究の精読 5	第 25 回	卒業論文の執筆 1
第 11 回	課題の設定 1	第 26 回	卒業論文の執筆 2
第 12 回	課題の設定 2	第 27 回	卒業論文の執筆 3
第 13 回	事例研究 1	第 28 回	卒業論文の校正 1
第 14 回	事例研究 2	第 29 回	卒業論文の校正 2
第 15 回	中間報告	第 30 回	要旨の作成

**到達目標**

- 各個人が興味のある企業に対して、研究テーマを設定し、卒業論文の項目に沿って調査分析することにより、卒業論文作成の基礎を修得する。
- 興味がある企業の調査分析を通して、将来担当する業務に活用できるスキルを身に付ける。
- 4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

**履修上の注意**

- 学生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- 本演習ではディスカッションインを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- 積極的、主体的に演習及び調査研究に参加する意識を持つこと。

**予習・復習**

- 研究のテーマの背景、先行研究、課題、事例研究、事例検証、考察、まとめなど、調査結果、進捗状況は適宜発表してもらうので、各自自分で整理・復習すること。

**評価方法**

- 成績は、出席状況、演習参加の姿勢、卒業論文の執筆、卒業論文の発表、課題提出などを踏まえ、総合的に評価する。

**・テキスト**

- テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示する。

## 授業概要

卒業論文・卒業研究は大学で学んだ知識の集大成である。ほとんどの学生にとって人生最初にして最後の大作業であり、この時期でしかできない貴重な体験でもある。教員のアドバイスとサポートを受けながら、テーマを選び、資料を収集し、構成を固め、最後は一気に書き上げる、という一連の作業は一人一人自ら取り組まなければならない。集中力、やり抜く力は卒論完成の必須条件である。ゼミでは後述の「評価方法・評価基準」に沿って指導し、論文の完成をバックアップしていく。

## 授業計画

第 1 回	概説：論文を書くということ	第 16 回	春期内容の確認と秋期タイムテーブル
第 2 回	関心のある複数のテーマを設定する	第 17 回	発表：各自の卒論内容（論文全体の 3 割を完成）
第 3 回	資料の確認とテーマの絞り込みを行う	第 18 回	（同上）
第 4 回	テーマを確定し、構想を練る	第 19 回	（同上）
第 5 回	発表：各自のテーマに関する先行研究	第 20 回	（同上）
第 6 回	（同上）	第 21 回	発表：各自の卒論内容（論文全体の 7 割を完成）
第 7 回	（同上）	第 22 回	（同上）
第 8 回	（同上）	第 23 回	（同上）
第 9 回	発表：各自の研究資料の分析	第 24 回	（同上）
第 10 回	（同上）	第 25 回	発表：各自の卒論内容（卒論初稿の完成）
第 11 回	（同上）	第 26 回	（同上）
第 12 回	（同上）	第 27 回	（同上）
第 13 回	発表：章立てを考え、論文の中心内容を再確認し、執筆（入力）作業を進める	第 28 回	（同上）
第 14 回	（同上）	第 29 回	目次、はじめに・終わりに、参考文献
第 15 回	（同上）	第 30 回	卒論要旨の作成と提出
		第 31 回	総括

## 到達目標

評価基準に少しでも近づけられるような卒論の完成を目指す。

## 履修上の注意

いったん決めたテーマを途中で変えると、時間的に余裕がなくなるので、極力避けること。

## 予習・復習

入手した文献資料は必ず通読すること。

## 評価方法

卒業論文の評価基準は次のとおりである。

- a.論文としての体裁が整っているか   b.論点は明確にしているか   c.研究の対象・範囲が定まっているか  
d.ある程度の独創性が認められるか   e.論拠への裏づけ（適切なデータ、資料）があるか

## テキスト

各履修者に対して参考文献を適宜指示・紹介する。

**授業概要**

卒業論文を作成するための方法を指導する。

すでに、専門演習でデータを分析する方法を習得しているので、ここでは、必要なデータがどこにあるか、収集したデータをどのように分析し、どのように解釈するべきか、について討論したい。必要とあらば、専門演習で習得できなかった分析方法に取り組むこともある。

**授業計画**

第 1 回	はじめに	第 16 回	収集したデータの構造の検討 1
第 2 回	論文のテーマの設定 1	第 17 回	収集したデータの構造の検討 2
第 3 回	論文のテーマの設定 2	第 18 回	収集したデータの構造の検討 3
第 4 回	論文のテーマの設定 3	第 19 回	収集したデータの構造の検討 4
第 5 回	先行研究の検討 1	第 20 回	収集したデータの構造の検討 5
第 6 回	先行研究の検討 2	第 21 回	統計モデルの作成 1
第 7 回	先行研究の検討 3	第 22 回	統計モデルの作成 2
第 8 回	先行研究の検討 4	第 23 回	統計モデルの作成 3
第 9 回	先行研究の検討 5	第 24 回	統計モデルの作成 4
第 10 回	必要なデータの収集 1	第 25 回	統計モデルの作成 5
第 11 回	必要なデータの収集 2	第 26 回	論旨の構成 1
第 12 回	必要なデータの収集 3	第 27 回	論旨の構成 2
第 13 回	必要なデータの収集 4	第 28 回	論旨の構成 3
第 14 回	必要なデータの収集 5	第 29 回	論旨の構成 4
第 15 回	収集したデータの検討	第 30 回	論文の表現方法の検討
		第 31 回	定期試験

**到達目標**

- 卒業論文を作成する
- 論旨を展開できるようなデータを収集する
- 論旨を理解できるような統計モデルを構築する
- 論旨を理解できるような表現方法を検討する

**履修上の注意**

- 専門演習で学んだ統計処理の方法を忘れないこと
- ネットで収集できないデータは、それが存在する機関へ取りに行くこと
- 必要な統計処理が必要な場合、改めて習得する必要があること

**予習・復習**

毎回の講義に出席をする必要がある。その場合、必ず何らかの進展があるように予習と復習を欠かさないようにする。また、論文の内容によっては、専門演習で習得できなかった統計的方法を理解する必要があるため、そのための予習と復習は欠かせない。

**評価方法**

卒業論文の内容によって、評価する。また、論文作成を指導する過程で、学習意欲のないものは、評価を下げることになる。

**テキスト**

特になし。その時々に必要なものを指摘する。

**授業概要**

卒業論文の研究および論文執筆・完成を指導する。3年次の専門演習にて行った調査・研究を基盤に、各自の卒業論文テーマを決定する。「研究の目的」を明確にし、「研究の方法」を検討し、研究を進めていく。研究に必要なデータや資料を収集し、整理・分析を行う。

研究の進捗状況報告と中間報告は都度ゼミにて発表する。「研究の結果」は正確に報告し、「考察」にて本研究で発見したことや課題につき報告する

皆さんは、論文を執筆するのは人生初めてであり、論文執筆におけるルール、作法を習得し、「卒業論文」を執筆し、完成させる。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	卒論テーマの確認	第 17 回	卒論での研究内容、テーマの確認
第 3 回	「研究の目的」「研究の方法」の説明	第 18 回	研究方法の再検討 1
第 4 回	研究の進捗報告・中間発表 1	第 19 回	研究方法の再検討 2
第 5 回	研究の進捗報告・中間発表 2	第 20 回	更なるデータ、資料の収集・追加
第 6 回	研究の進捗報告・中間発表 3	第 21 回	研究結果の整理・集約 1
第 7 回	研究の進捗報告・中間発表 4	第 22 回	研究結果の整理・集約 2
第 8 回	研究の進捗報告・中間発表 5	第 23 回	研究結論の考察 1
第 9 回	研究の進捗報告・中間発表 6	第 24 回	研究結論の考察 2
第 10 回	研究の課題と検討点報告 1	第 25 回	論文執筆 1
第 11 回	研究の課題と検討点報告 2	第 26 回	論文執筆 2
第 12 回	卒業論文執筆 1	第 27 回	論文提出・発表
第 13 回	卒業論文執筆 2	第 28 回	論文修正
第 14 回	卒業論文執筆 3	第 29 回	修正論文発表
第 15 回	中間段階での卒業論文提出	第 30 回	完成論文提出
		第 31 回	要旨の作成、提出

**到達目標**

- ・大学時代のみならず、自分の学校時代の勉学の集大成として、この卒業論文を書き上げること。
- ・論文執筆、レポート作成時における、ルール、作法を習得して知ること（剽窃厳禁、スタイル、引用記載方法、注のつけ方、フォントのルール、数字の順番など）。

**履修上の注意**

- ・早め、早めで研究を進めて、時間的余裕をもって卒業論文を仕上げること。

**予習・復習**

- ・卒業論文を 4 年生の大学生活のコアに据え、学校時代の集大成にする作品を書き上げること。

**評価方法**

- ・卒業論文、論文発表、毎回の授業態度を総合的に評価する。

**テキスト**

- ・特になし。必要な文献は授業内で紹介する。

**授業概要**

3年間で学んだことを踏まえ、各自研究テーマを決めて研究方法を検討し、卒業論文を完成させることを目的としている。研究テーマに沿って必要な資料やデータを収集し、分析、考察していく力を身に付ける。研究に取り組む過程で、プレゼンテーションなどを行うことにより、研究課題への理解を深め、最終的に論文をまとめるよう指導する。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	関心のある研究論文の発表 1	第 17 回	更なる論文、資料の収集の仕方
第 3 回	関心のある研究論文の発表 2	第 18 回	方法の検討 1
第 4 回	テーマの設定	第 19 回	方法の検討 2
第 5 回	先行研究の読解 1	第 20 回	調査・実験の実施 1
第 6 回	先行研究の読解 2	第 21 回	調査・実験の実施 2
第 7 回	先行研究の読解 3	第 22 回	調査・実験の実施 3
第 8 回	先行研究の課題 4	第 23 回	結果の整理 1
第 9 回	先行研究の課題 5	第 24 回	結果の整理 2
第 10 回	問題点の討論 1	第 25 回	考察のまとめ 1
第 11 回	問題点の討論 2	第 26 回	考察のまとめ 2
第 12 回	問題点の討論 3	第 27 回	卒業論文の執筆 1
第 13 回	問題と目的のまとめ 1	第 28 回	卒業論文の執筆 2
第 14 回	問題と目的のまとめ 2	第 29 回	卒論発表予行演習 1
第 15 回	問題と目的のまとめ 3	第 30 回	卒論発表予行演習 2
		第 31 回	筆記試験等 (含むレポート)

**到達目標**

- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・これまで学んだことを多面的な視点で考えられる応用力、論理的思考力を習得する。
- ・4年間の集大成として卒業論文を書き上げることができる。

**履修上の注意**

- ・無断欠席はせず、欠席する場合には連絡すること。
- ・主体的に参加すること。
- ・毎回の授業内容をノート等に記録すること。

**予習・復習**

- ・毎回の課題について、自ら積極的に調べておくこと。

**評価方法**

卒業論文 (70%) と卒論発表 (10%)、筆記試験等 (20%) 等をふまえ、総合的に評価する。

**テキスト**

指定しない。

**授業概要**

データサイエンスに関して3年次に学んだことを元に、より進んだデータサイエンスや AI への応用、量子コンピューターを使ったデータサイエンスを学びます。R を用いてニューラルネットワークに関する基本事項を学んだ後、Python のモジュールによるニューロモデルについて学びます。次に XAI (eXplainable AI) の基本を学び、代表的な手法である LIME を学びます。最後に量子コンピューターと量子コンピューターでのデータサイエンスについて学びます。卒業論文は3年次の学習内容や4年次の学習内容を用いた分析手法を用いたものとし、テーマ発表、3回の中間発表、最終発表を通じて完成させます。

**授業計画**

第 1 回	春期ゼミオリエンテーション	第 16 回	秋期ゼミオリエンテーション
第 2 回	卒論テーマの発表と検討	第 17 回	卒論の中間報告3回目
第 3 回	ニューラルネットワーク① (構造)	第 18 回	LIME① (ライブラリの準備)
第 4 回	ニューラルネットワーク② (BP)	第 19 回	LIME② (データの準備と点検)
第 5 回	ニューラルネットワーク③ (実習準備)	第 20 回	LIME③ (前処理)
第 6 回	ニューラルネットワーク④ (実習)	第 21 回	LIME④ (モデル学習)
第 7 回	Python の各種モジュール	第 22 回	LIME⑤ (LIME の準備)
第 8 回	卒論の中間報告1回目	第 23 回	LIME⑥ (LIME の実行)
第 9 回	Python によるニューラルネットワーク	第 24 回	卒論の最終報告
第 10 回	AI に求められるもの	第 25 回	卒論のまとめ
第 11 回	説明可能性の高いアルゴリズム	第 26 回	量子コンピューター① (概論)
第 12 回	説明可能性の低いアルゴリズム	第 27 回	量子コンピューター② (量子ビット)
第 13 回	XAI① (XAI とは何か)	第 28 回	量子コンピューター③ (量子ゲート)
第 14 回	XAI② (説明分類)	第 29 回	量子コンピューター④ (測定)
第 15 回	卒論の中間報告2回目	第 30 回	量子プログラミング

**到達目標**

データサイエンスについての理解を深めると同時に、卒業研究を進め完成させる。

**履修上の注意**

1年間かけて研究を行い卒業論文を完成させます。テーマ選定・データ収集分析のデザイン・データ管理・データ加工・分析の実行・モデル発見・結果の検討・価値創造という一連の過程を卒業研究で行うことでようやくデータサイエンスを本当に理解できることとなります。このことをしっかり意識して演習に参加してください。

**予習・復習**

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。

復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

**評価方法**

ゼミへの貢献 (学習への積極的関与) 40%、卒業論文60%で評価します。合計 100 点のうち 50 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が 10 回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

**テキスト**

オリエンテーション時に指定します。

**授業概要**

経済・経営分野と情報科学の領域を中心に、専門演習などの授業の蓄積した知識を踏まえて、実証研究を実施する。具体的には、

- ①AI（人工知能）に関する研究及び実証研究
- ②フィンテックに関する研究
- ③暗号通貨やブロックチェーンに関する研究 などを研究範囲と考えている。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション（研究範囲の説明）	第16回	オリエンテーション
第2回	研究論文の体裁1（問題と目的）	第17回	データ収集方法の検討1
第3回	研究論文の体裁2（方法部分の記載）	第18回	データ収集方法の検討2
第4回	研究テーマの提案（図表の書き方）	第19回	中間構想発表会1
第5回	研究論文の結果の書き方	第20回	中間構想発表会2
第6回	考察部分の記載内容について学ぶ	第21回	データ分析結果報告1
第7回	引用文献の記載方法について学ぶ	第22回	データ分析結果報告2
第8回	テーマの発表1と質疑応答	第23回	分析結果を図表にまとめる
第9回	テーマの発表2と質疑応答	第24回	考察の執筆について
第10回	各ゼミ生の問題点の討論1	第25回	論文の発表1
第11回	各ゼミ生の問題点の討論2	第26回	論文の発表2
第12回	テーマに関する社会への応用について	第27回	論文要旨の作成（要旨提出）
第13回	秋期の研究スケジュールについて	第28回	論文の最終報告（論文提出）
第14回	個別相談	第29回	発表準備
第15回	夏休み中の研究内容の計画提出	第30回	まとめ

**到達目標**

- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を集めることができる。
- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を読み、内容を理解でき、論文にまとめられる。
- ・研究テーマの実証実験を中心に、研究内容を論文として適切にまとめることができる。

**履修上の注意**

- ・学科の専門必修科目の他、経済・経営、データサイエンス科目群の学習を事前に行う。

**予習・復習**

- ・発表準備のための予習・発表後の振り返りは必ず行う。
- ・仲間の発表に対しても積極的な質問や意見を発表する。

**評価方法**

卒業論文又は卒業研究の評価(60%)、発表・ディスカッションへの参加度(20%)、提出するレポート(20%)などにより、総合的に評価します。

**テキスト**

- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示します。
- ・必要に応じて資料は配布します。

**授業概要**

本ゼミは、管理論や組織論を中心とした経営学の主要分野と、日本経済の特質について研究することをテーマとしてきました。経営と経済の両分野にまたがる複眼的な思考に基づいて、これまで学んできたものを学術論文としてまとめ上げることは、まさに知識の集大成といえます。

つまり卒論研究は、これまで蓄えた知識をもとに自説を論理的に展開し、最大限の知的付加価値をもたらす作業です。このプロセスを、地道に順を追って行うことが求められます。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス ー目的、方法、評価等ー	第 16 回	論文第 1 稿の内容検討(1)
第 2 回	研究テーマの選定(1)	第 17 回	論文第 1 稿の内容検討(2)
第 3 回	研究テーマの選定(2)	第 18 回	論文第 1 稿の内容検討(3)
第 4 回	研究テーマの選定(3)	第 19 回	論文各章の内容検討(1)
第 5 回	選定したテーマの批判的検討(1)	第 20 回	論文各章の内容検討(2)
第 6 回	選定したテーマの批判的検討(2)	第 21 回	論文各章の内容検討(3)
第 7 回	選定したテーマの批判的検討(3)	第 22 回	論文第 2 稿の内容検討(1)
第 8 回	研究構想の作成 一章立ての検討ー(1)	第 23 回	論文第 2 稿の内容検討(2)
第 9 回	研究構想の作成 一章立ての検討ー(2)	第 24 回	論文第 2 稿の内容検討(3)
第 10 回	研究構想の作成 一章立ての検討ー(3)	第 25 回	論文各章の最終チェック(1)
第 11 回	先行研究および文献の検討結果報告(1)	第 26 回	論文各章の最終チェック(2)
第 12 回	先行研究および文献の検討結果報告(2)	第 27 回	論文各章の最終チェック(3)
第 13 回	先行研究および文献の検討結果報告(3)	第 28 回	論文完成稿の発表(1)
第 14 回	論文執筆の方向性(1)	第 29 回	論文完成稿の発表(2)
第 15 回	論文執筆の方向性(2)	第 30 回	論文完成稿の発表(3)

**到達目標**

本演習の目標は、知の集大成としての卒論を時間の許す限り徹底的に書き上げることです。まずは、各自の知的興味はどこにあるのかを探り出し、テーマを追求する過程をたのしみ、その結果として完成した論文の内容が充実していることが理想と考えます。

**履修上の注意**

前期は論文の土台となる、テーマ選定、論文構成、章立ての詳細、基礎文献の読み込みを行い、後期は構想にしたがって論文を書き進めることが課題です。

各回、履修者数名が指導対象となるが、自分の担当でない場合も他の履修者に対する指導内容から学ぶことが求められます。したがって、全回出席が必須となります。

**予習・復習**

授業計画に基づく指導内容にしたがって、毎回論文原稿に新たな知見を加えていきます。

**評価方法**

論文内容と指導過程における取組み状況が評価されます。

**テキスト**

各自のテーマによります。